

「内視鏡的粘膜下層剥離術」の紹介

名古屋記念病院での最新の早期胃がん治療法

取材／読売新聞中部支社編集部 編集委員 片岡 太

名古屋記念病院 消化器内科医師 **鈴木重行** 先生
名古屋記念病院 消化器内科医師 **近藤啓** 先生
名古屋記念病院 消化器内科部長 **山内学** 先生



山内学先生



近藤啓先生



鈴木重行先生

名古屋記念病院（名古屋市天白区、藤田民夫院長）は、2年前から最新の治療法で早期胃がんの治療を行っている。これまでに25症例の早期胃がん患者さまを治療しているが、これといった大きな合併症もなく、入院期間も短くて済むために社会復帰も早くできるなど大きな成果を上げている。早期胃がんに対する治療法について消化器科の山内学部長、近藤啓医師、鈴木重行医師の3人に話を聞いた。

Q 名古屋記念病院が行っている最新の早期胃がんに対する治療法を教えてください。
山内部長／この治療法は、「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）」といいます。治療対象は一般的に早期胃がんのうち粘膜表層のがん（粘膜がん）で、分化度が高いがんに限ります。

Q 最新の治療法となると、特殊な装置や器具が用いられるケースが多いのですが、このESDも特殊な装置や器具を使いますか。

山内部長／治療のための装置本体は、胃の検査に使われている内視鏡機器ですが、胃粘膜を剥離する必要があるため、剥離範囲を明確にするための針状メスやITナイフと呼ばれる先端に絶縁素材をつけた剥離用ナイフなどを用います。

Q 治療の手技はどのようになりますか。

近藤医師／ESDの手技は、写真のように内視鏡を通して処置具である針状メスががん病巣の周囲をマーキング（印を付けること）し、病巣の下層（粘膜下層）に薬物を注入し、病巣を押し上げ、ITナイフで病巣周囲の粘膜を切開し、病巣を剥ぎ取るように粘膜下層で切除（剥離）します。

Q 内視鏡で、がん病巣を直接見ながら剥離するのですか。

鈴木医師／はい。モニターに映し出された画像を見ながら剥離します。

Q ESDはがんを剥離するということですが、剥離について説明して下さい。

鈴木医師／がん病巣を剥離するということは、がん病巣を含めた組織を剥がして取り除くということです。

Q 剥離する大きさはどのくらいですか。

近藤医師／その時のがんの広がりにもよって異なるので一概には言えませんが、だいたい3センチ以上になります。

Q ESDの特徴は。

近藤医師／大きな特徴は、がん病巣を中心に組織を一括切除することと、剥離した